

平成三十年度

第五十八期生

合格体験記

熊本学園大学付属高等学校

進路指導部



発刊に寄せて

進路指導部 部長 岡田公治

【私立大学・専門学校等】

【特別推薦特待生】

○熊本学園大学 外国語学部 英米学科

【公募推薦】

○中京大学 総合政策学部 総合政策学科

【指定校推薦】

○立教大学 社会学部 現代文化学科

○明治学院大学 社会学部社会学科

○國學院大學 経済学部 経済学科

○国立病院機構熊本医療センター附属看護学校

【AO入試】

○日本大学 芸術学部 写真学科

○九州看護福祉大学 看護福祉学部 看護学科

【国公立大学】

【AO入試】

○九州工業大学 情報工学部 情工3類

○熊本大学 理学部 グローバルリーダーコース

○熊本大学 法学部 グローバルリーダーコース

【推薦Ⅰ・Ⅱセンターを課さない推薦】

○宮崎大学 農学部 応用生物科学科

○佐賀大学 経済学部 経済法学科

【推薦Ⅱ・センターを課す推薦】

○熊本大学 医学部 医学科

T・M

R・A

M・N

T・S

I・T

M・M

M・M

S・I

M・K

R・N

K・F

M・Y

K・S

A・K

○熊本大学 教育学部 小学校教員養成課程

○熊本大学 工学部 材料・応用化学科

○熊本大学 工学部 情報電気工学科

【一般入試 前期日程】

○神戸市外国語大学 外国語学部 英米学科

○兵庫県立大学 国際商経学部 国際商経学科

グローバルビジネスコース

○北九州市立大学 法学部 政策科学科

○九州大学 教育学部

○九州大学 芸術工学部 工業設計学科

○福岡県立大学人間社会学部 人間形成学科

○熊本大学 法学部 法学科

○熊本大学 教育学部 小学校教員養成課程

○熊本大学 教育学部 中学校理科教員養成課程

○熊本県立大学 文学部 英語英米文学科

○熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学科

○鹿児島大学 法文学部 法経社会学科 地・経

【一般入試 後期日程】

○横浜国立大学 理工学部 機械材料海洋系学科

○鹿児島大学農学部農業生産科学科

○天草広域連合消防本部

【就職】

編集後記

T・Y

K・M

T・M

D・K

F・K

A・K

J・S

M・K

R・S

M・S

S・F

Y・K

S・T

M・S

S・Y

Y・I

T・H

M・S

合格体験記発刊に寄せて

進路部長 岡田公治

五十八期生：諸君が入学して4日目：進度7の大地震：未曾有の状況からもうすぐ三年が経とうとしている中で、復旧・復興も道半ばの日々を経験しつつ、今の自分と未来の自分を考えながらの進路決定は、さぞかし大変だった事でしょう。後輩への「道標」としての「合格体験記」執筆を依頼するにあたり、五十八期生諸君が、「後輩のためにになるのであれば」と、その依頼を快く引き受けていただいていたことは、母校や後輩へ対する思いやりとして、その意義を十二分に受けて止めております。五十八期生の健闘を賞賛し、感謝の意を表します。

これから受験期を迎える在校生諸君！現代社会は成長社会から成熟社会へと移り、その流れと変化がとても早い時代となってきました。今後の世の中では、その多くの仕事はAIへと置き換わるとも言われている中で、人間でしかできないことを模索して行かなくてはなりません。

しかし、人間でしかできないことって、必ずあります！大切なことは、熊本地震でも皆さんが避難所等で経験した、自助・共助・公助の取り組みです。つまり、他者を認め、協調的にチームとして対応することが重要なのです。そう、「仲間」です。

多様化する社会に対して、大学入試も多様化の流れとなつて来ています。五十八期生の多くが多様な入試を経験していることから納得できるのではないのでしょうか。これまでの入試は知識重視型（知識の資本主義）で、これからの入試は

知識運用型（知恵の創造主義）とも言えるわけで、そこで必要とされるものとは、やはり、チーム力です。

チーム力の高い集団＝五十八期生。諸君が学年全員で体現してくれたように、チーム力の高い集団は、進路決定に対しても、とても高い結果となります。そこで、これを読んでいる在校生諸君：チーム学付：学年を越えて、また、生徒と教師の枠も取っ払って、学習する組織として付属高校全体でチームを形成しましょう！

中国のことわざ：

ある人に魚を一匹与えれば、一日食べる。

魚の捕り方を教えれば、その人は一生を通して食べる。

意識して欲しいことは：主体的な学習！！

私たち教職員は、みんなと供に、師弟同行のもと、魚は与えません。チーム学付のメンバーとして、一緒に魚の釣り方を学びましょう。自分で思い描いた大きな魚を捕まえるために：。

最後に、自分軸をぶらさずに一生懸命に歩んだ五十八期生の「合格体験記」が後輩達へと渡される樺として受けつがれ、後輩達の進路実現への「道標」となることを期待して：。



「B E S T R O N G」

熊本学園大学 外国語学部 英米学科

(特待生推薦)

熊本学園大学付属中学校出身 A・K

私がこの熊本学園大学の特待生を目指し始めたのは、中学校2年生の時、この大学に行けば夢を叶えることができると思ったからでした。実際に『熊本学園大学に行く』と決めたのは、高校1年生の時でしたが、まだ高校1年生の時は部活など、楽しいことだけを中心にしていたので実感がなく、怠けていたのが事実です。

大学の特待生を頂くために評定平均のボーダーラインがあったのですが、いざ1年の時自分の評定を計算してみると、全く足りませんでした。ですが、焦りもせず、高1を終わりました。高2の時改めて、大学について調べやはり、熊本学園大学の特待生を頂きたいと思い勉強を急に焦って始めました。

その時気付いたのが、急に勉強を始めて無茶苦茶にやっている人と、コツコツ計画的に勉強してきた人との成績の出方です。やはり、コツコツやってきた人の方がミスは少なく、全てにおいて良い成績を取っていました。そこから、私は高校2年の後期から、コツコツ意欲的に定期テストに対して対策を日頃から取っていきしました。それを最終的に高校3年の前期まで続けました。苦手なことが多かったので、自己流のやり方を見つけるまでが大変でしたが、「不器用なやり方でも、やれば力が付く」と友人に言われて、やり方見つけてからは勉強が楽しく、やることがわかるようになってきました。

た。

ここまでは、様々な事に飽きつぱく、すぐ諦めてしまいう私が続けられたのは先生からの助言であったり、親が私の事を大変理解してくれた事と、色々な話を聞いてくれて、バカな事を一緒にしてくれた友達がいいた事、そして何よりも自分の夢があった事でした。

今回のことで、皆さんに伝えたいことは、何か小さなことでもいいので目標であったり、将来の夢を考えてみてくださったり、頑張らせる材料になります。今回特待生を頂くにあたって、多くのことを悩みましたし、不安になることが多々ありました。その度に親や友達に相談したりしましたが、最終的に乗り越えるのは自分自身で、決めるのも自分自身です。だから自分が見つけた目標や夢を信じて突き進んで下さい。

You. re strong



「志望校」

中京大学 総合政策学部 総合政策学科

(公募推薦)

武蔵丘中学校出身 K・S

これを読んでいるみなさんの中には、1年後や2年後に自分がどんな道に進もうとしているのか想像できずに不安になっている人もいるかもしれません。でも、焦って急いで決める必要はないので、たくさんさんの選択肢の中から少しずつ絞って、よく考えて決めてほしいと思います。

私が春から通う大学を志望校にしたのは、3年生の夏です。それまで1年生の頃から違う大学を目指していました。

今思えば、「自分の興味のあることも学べて、家からも通えるからここにしておこう」というような軽い気持ちだったのかなとも思います。それでもオープンキャンパスには毎年行き、過去間にも取り組んだりしていました。そうして3年生になった私でしたが、常に「自分はこのままで大丈夫なのか」というような少しの不安を感じていました。しかしそんな私に自分の本当に行きたい大学について考え直す機会がありました。それが3年生の夏、インターハイが終わった頃です。私は両親に「その熱意を勉強にも見せてほしい」とお願いされるほど、「弓道命」でした。幸運にもその弓道でインターハイに行く事ができたのですが、結果は達成感とともに悔しさも残るものでした。丁度その時期に「弓道で大学に行く」という話もあったので、悔しさを晴らしたい気持ちからその話を進めてしまいました。結局その大学には行かないことになりましたが、これをきっかけに様々な視点から大学選

びをするようになりました。結論から言うと、私は志望校を決めたポイント

は、「学びたいことが学べる」こと以外に、「将来の夢を実現するためのカリキュラムが他の大学よりも整っている」「学部学科関係なく興味ある授業を受けられる」といったことです。が、1番は実際に行って模

擬授業や学生の方の話を聞いて「ここで学びたい」と強く思ったことです。パンフレットやホームページではわからないことがたくさんあります。絶対に直接行って自分で見て聞いて決めてほしいです。

また、最近はいろんな受験方式があります。自分に有利な方式、得意な方式で受けることもひとつの手です。大きな決断の連続だと思いますが、1つ1つよく考えて決めてください。そして、私みたいにギリギリじゃなく余裕を持って決めてほしいと思います。きついこと苦しいこといろいろあると思いますが、応援しています。頑張ってください。



「受験生」

立教大学 社会学部 現代文化学科

(指定校推薦)

出水中学校出身 M・Y

「一年生の頃から勉強しておけば良かった。」この一年間で何度この言葉を耳にしたことでしょう。大学入試は一年生の時から始まっています。これは単に、一年生の学習範囲も大学入試で出題されるから言っているわけではありません。推薦入試を受ける時に必要となる評定平均が、一年生からの成績で判断されるのです。受験生になりどれだけ努力をしたとしても、一年生の成績を変えることはできません。私は三年生で志望校を変えましたが、一年生の頃から積み重ねた努力が実り、指定校推薦で合格することができました。

努力をしてみると言っても、何か特別なことをしていた訳ではありません。塾に通っていない私にとつては、学校の授業が全てでした。真剣に授業に取り組み、放課後はラウンジで予習、復習、小テストの勉強をし、その日出された課題を全て終わらせて帰る。毎日続けたのはこれだけです。当たり前のことだと言われてしまうかもしれませんが、これが一番効率の良い勉強法だと思います。私は先生方に勧められたことしかやっていませんが、勧められてやらなかったことは一つもありません。「過去問を解いておきましょう。」「模試のやり直しをしましょう。」「この参考書がいいですよ。」「これから全てに丁寧に取り組むだけでも相当な勉強量になるはずですよ。焦って色々な勉強法を試す前に、学校の課題に真剣に取り組むことをお勧めします。皆さんが受験生になった時に後

悔することがないよう、日々を過ごしてほしいです。

皆さんは今受験生ですか。三年生は受験生と呼ばれますが、本当の意味で受験生になるタイミングというのは、人それぞれにあると思います。三年生になった時。部活を引退した時。志望校を決めた時。私が受験生になったのは、二年生の冬、進路部から過年度の赤本を頂いた時です。その日の放課後に早速解き、現状の厳しさを知り落胆しました。それと同時に、赤本に添えられた先生方からの言葉に励まされ、受験に臨む覚悟ができました。その後私の志望校は変わりましたが、その時の赤本を常に勉強机に置き、モチベーションを高めていました。皆さんにも受験生としての自覚が芽生える時がきます。その気持ちをどうか忘れないでください。辛い受験を支えてくれるのは、その大学に行きたいというあなたの強い意志です。もしこれを読んで受験を意識したのなら、今から受験生のスタートを切ってみてはどうでしょうか。皆さんが笑顔で受験を終えられるよう願っています。



立教大学
RIKKYO UNIVERSITY

「文武両道を極めよ」

明治学院大学 社会学部 社会学科

(指定校推薦)

熊本学園大学付属中学校出身 K・F

「大学に行きたい」そう思い始めたのは高二的の夏です。それまでは専門学校に行こうか、それとも就職しようかなど考えていました。高二的の夏に大学進学を決断するというのは周りの人たちを見てもかなり遅い方でした。そんなのでよく指定校推薦が貰えたなと思われることでしょう。自分でもそう思います。私は入試を受けていないので、受験勉強に関することを書くことができません。そこで私は部活動を引退するまでの間の勉強との両立について書きます。

私は中学高校と、ポート部に所属していました。ポート部は高校になると一気に練習量が増えるので、高一の頃は長時間の練習をしながら自分で勉強していくのは無理だと思っていました。二年生で大学進学を決意してからは、それまでは部活を言い訳にして無いと思っていた時間が、意外とあることに気づきました。空いた時間に勉強するということ考えたのを、自分から意識して勉強時間を作っていくように変えました。具体的に始めたのが、朝課外が無い日も同じ時間に学校に行つて自習をすること、部活が終わってから一時間自習をして家に帰ることです。三年生では引退するまで毎日これを続けました。これでも夜十一時には寝られます。私はインターハイに出場したため、引退は八月でした。周りが六月に引退して勉強を始めたときは正直焦りました。しかしそのおかげで、引退した次の日から切り替えて部活をしていた時

間も全て勉強に使うことができました。部活は最後までやり通してよかったと思うし、今部活動をしている人は是非最後まで続けてください。

評定平均値を一番左右する定期テストについてですが、私は時間をかけてひたすら暗記していました。これは真似しない方がいいです。ただ定期テストの勉強はテスト期間に入る前に始めた方がいいです。最後に推薦はみなさんが思ってるより厳しいので、期待しすぎずチャンスを増やす一つの手段くらいに考えておきましょう。



DO FOR OTHERS



「合格を振り返って」

國學院大學 経済学部 経済学科

(指定校推薦)

宇城市立小川中学校出身 R・N

私は、十一月二十五日に國學院大學に指定校推薦で合格することができました。私なりに本校での、大学合格までの経緯を書きたいと思います。

私は、本校に入学する際、中学受験で本校を受験する時から指定校推薦を考えていました。だから三年間ずっと指定校推薦を考えて生活していたといっても過言ではありません。

しかし指定校推薦で大学に合格するためには、定期テストで良い点を取り、成績としての評定が必要です。さらに学校側からこの人なら推薦できるという人格や信頼を得ることが必要です。そこで私が指定校推薦を考える上で大切だと思うことを伝えていきたいと思います。

私は、大切だと思うことは大きく二つあると思います。

一つめは、成績です。まずは定期テストで良い点を取り、評定が必要です。そのためには、毎日の授業に対してどれだけ集中して取り組むかだと思います。せっかく高い費用を払い、あれだけ良い環境であれだけ良い先生に囲まれているのだから、本当にその人の意識次第で勉強の習熟度が変わってくると思います。では、自分が日々の授業を集中して頑張っていたかと言われるら、胸を張って答える事は出来ません。しかし、だからこそ、定期テストの前はとも集中して勉強したと思います。そして復習にスタディーサプリをいつも使っていました。スタディーサプリは1コマ十五分程度で

とてもポイントがおさえられていて、ちょうど集中して効率的に復習できます。個人的にとってもお世話になり、本当におススメです。しかし大事なものは、授業ですし、予習復習がしつかりできれば、大丈夫です。

二つめは、推薦されるような人であることです。これは、しつかり当たり前のことが出来れば大丈夫だと思います。毎日学校に元気に登校することや授業を一生懸命頑張ること、部活動や一生懸命頑張ることなど、当たり前のことがしつかりできていれば、おのずと学校から推薦される人物になると思います。私は、この二つの事を意識して生活してきました。少しでも参考になればと思います。

では最後に。目標をしつかり持ち、高校三年間という時間を自覚すべきだと思います。まず、自分がこれからどうなりたいか、どういう人物になりたいのかしつかり考えることです。そうすれば、物事への優先順位など自分の中で色々な変化があると思うし、成長できると思います。そして、勉強も確かに大切なのですが、やはり部活動や学校生活や、高校生だからこそできることなど、「今」を全力で頑張ってください。



KORUGAKUIN Univ.

國學院大學

「夢への最短ルート」

国立病院機構熊本医療センター附属看護学校

(指定校推薦)

京陵中学校出身 M・K

私は、4月から国立病院機構熊本医療センター附属看護学校へ進学します。

以前から将来は人の役に立つ仕事をしたいと考えていました。震災も経験し、自衛隊、消防士、警察官などにも興味がありました。母が助産師であり、夜勤や多忙な日々の中、患者さんの笑顔が見れて、やりがいがあると行って働いてる姿を身近に見てきました。そして、私も周りの人を笑顔にする助産師になりたいと思うようになりました。

私の高校時代、勉強は二の次でテニスに夢中でした。そのため、私にとってテニスと勉強との切り替え、短い間にどれだけ集中して勉強できるかが重要でした。そして、念願だったインターハイ出場ができ、2年生の夏はテニスの日々でした。その後、先生から指定校推薦について教えてもらいました。推薦で看護の専門学校に行くか、一般入試で大学の看護学科に行くか、両方のメリット・デメリットを考えました。最終的には、実際にオープンキャンパスに参加し見学し、自分の将来の夢へ最短で近づける方法、国立病院がそばにあり設備が充実していることを踏まえ、国立病院機構熊本医療センター附属看護学校に決めました。推薦をもらうために、日頃の行動にも気をつけました。校内選抜決定後は、先生から何回も面接指導や小論文指導をしていただきました。これで全く取り組んでいなかった小論文には苦戦しましたが、

先生方に支えられ、アドバイスをもらって頑張ることが出来ました。

受験は小論文と面接でした。かなり緊張しましたが、何回も練習したから大丈夫だと自分を信じ、大きな声でハキハキ答えることを意識して臨みました。体育会系だねと笑顔で面接官に言われたときは、私らしさが出てると安心しました。

後輩のみなさんの中には、今から総体に向けて、部活動にも力を入れないといけない人もいます。周りは塾に行ったり勉強に力を入れ出し焦る気持ちも強くなります。そんなときは、携帯を触る時間を減らして、少しの時間でも集中して勉強することを心がけてください。私のように、2年生になって指定校推薦を考える人もいます。提出物や定期考査は直接、評定につながるもので、真面目にやるべきだと思います。また指定校推薦では、日頃の態度や、自分の努力を見られるので、先生からの信頼をしっかり得ることや自分から積極的に行動を起こすことが大切です。

私は、学付から推薦をもらった責任と自信を持ち、自分の夢に近づけるために挑戦していきます。今後多くの経験をして、知識と実技を身につけ、信頼してもらえる助産師になるために頑張ります。



「感謝」

日本大学 芸術学部 写真学科

(AO入試)

熊本大学教育学部附属中学校 S・I

まず初めに、私は勉強を全くしていません。AO入試だけの練習をしました。合格できていたから良かったのですが、絶対に勉強しておいたほうが良いです。この体験談も、所々文章がおかしいと思います。

進路を考え始めたのは高校二年生の夏休みでした。日芸以外の写真を学べる大学をインターネットで調べ、資料請求をし、夏休みに3つのオープンキャンパスに行き、日本大学芸術学部写真学科(以下、日芸という)に決めました。

入試が特殊なため、私は東京にある日芸対策に特化した塾に行くことにしました。三年生の夏休みから入塾し、東京に泊まって通い、同じ学科を受ける人と交流することで、劣等感を感じ、絶対に負けたくないという対抗心も生まれました。どんな入試内容かという点、一次審査に書類審査があり、二次審査に面接やプレゼン、実技があります。

書類審査では、自分の将来の希望や経験、志望理由を自由に書いて提出するというものでした。何となく描いていた将来を文字で表すというのは、勉強の努力をしていない私にとって、どうまとめればいいのかもわかりません。周りの受験生がスラスラと書く音が聴こえる中、数行しか書くことができません。講師の方々と沢山話して自分の考えを明確にし、何とか提出期限ギリギリで終わらせることができました。

二次審査は二日あり、事前に書いてくる小論文と初日は大

学のキャンパスを一時間撮り、その中から五枚の組写真を作り、五分ほどプレゼンテーションをし、その後面接というものでした。二日目は面接のみでした。このとき、自分の作品を持参することができました。面接の練習では言葉は色々出るのですが、顔が無表情だったり、本番一週間前とは思えないような出来栄でした。そんな中、担任の厚先生と園田先生は、昼休みや放課後に毎日面接やプレゼンの練習に付き合ってくださいました。そして迎えた本番は、練習のときの何倍も声のトーンや表情、発言も良くてきたと思います。

練習したことと質問された内容は殆ど違っていたけれど、それでも困らなかつたのは先生の指導があつてこそだと私は思います。沢山の方々に応援を頂いて、私だけの力では到底できなかったことだと思っています。本当に感謝しています。

最後に、面接やプレゼンなどで凄く緊張すると思いますが、絶対にその大学に行つてやるという強い意志を持っていけば何とかなると思います。頑張ってください。



「AO入試への挑戦」

九州看護福祉大学 看護福祉学部 看護学科

(AO入試)

御船中学校出身 M・M

私は高校三年生になっても進路を決めきれずにいた。周りの友達が決めた進路を決めていく中で、私は部活動に取り組む毎日だった。そんな日々を送っている中で、夏休みに三者面談が実施された。面談時、詳しく進路の決まっていな私に担任の先生が勧めたのは「AO入試」だった。看護師になりたいという夢だけもち、どこか大学を目指すかは何も決まっていなかった私は、なんとなくセンター試験を受けるのだろうなと思っていたため、先生の口から「AO入試」という言葉が出てくるとはまったく想像していなかった。しかし小学四年生で始めたテニスを中学・高校と続け、高校生では二度も全国大会に出場し、そのメンバーにも選ばれた。そして、中学生ではキャプテン、高校生では副キャプテンを務めた。また、部活動を言い訳には出来ないが、部活動に入っていない人や、もうすでに引退した人に比べると、受験期では、やはり勉強に遅れをとってしまうと思った。このようなことを踏まえ、部活動での成績やキャプテン副キャプテンの経験など、自分の長所を思いっきりアピール出来る入試は「AO入試」しかないと思い、「AO入試」という入試方法を選択した。

入試方法が決まってからは、自分が興味を持っている学部がある大学を調べ、その中で自分に一番合うと思った大学に

出願することを決めた。

出願する大学が決まってからは、入試に必要な小論文と面接の指導担当の先生を決めてもらい、その後は受験日までひたすら小論文を書き、面接の練習を繰り返し行った。もちろん提出書類も書かなければならなかったため、志望理由書・

志望調査書・活動報告書なども毎日書いて書き直すことを繰り返した。先生に何度も確認してもらい、自分が納得出来るものを書けるまで書き続け、自信がつくまで面接の練習も行った。受験当日は、もちろん緊張もあったが、今までしてきたことを思い出し受験に臨んだ。小論文ではいつも通り落ち着いて書くことが出来たと思うし、面接でも、自分の長所である明るさとコミュニケーション力で自分のことを精一杯伝えることが出来たと思う。無事に受験を終え、結果は合格。自分の受験番号があると分かった時は、きつい時もあったが、毎日必死に頑張つて良かったと思った。

「AO入試」の良いところは、自分の長所を自分の口から直接伝えることが出来ることや、早く大学が決まるため、大学生になるまでの準備期間を長く確保できるところにあるのではないかと自分の身をもって分かった。改めて「AO入試」に挑戦して良かったと思う。



「メンタルを鍛え上げて合格へ」

九州工業大学 情報工学部 情工3類

(AO入試【センターを課す】)

飽田中学校出身 M・M

本来、合格体験記で勉強法や努力してきたことを伝えるべきかもしれないが、恐らく、これを読んでもくれるあなたと、さほど変わらないだろう。むしろ、私が劣っているかもしれない。しかし、「メンタル」は負けていない自信がある。私は、成績が伸びない、結果が出ない、もう勉強なんかしたくない、そう思っている人に伝えたいことを書くと思う。

まず1つ目に言いたいこと「判定なんて気にするな」。私は、高校入試で失敗した。当時、模試でA判定だった公立高校を受験した。結果、学付へ。高校生活の中での模試、私は志望校においてD、E判定しか出したことがない。だが、合格した。見ての通り、私は、模試の判定は気にする必要があると思う。これから模試を受けるにあたって、大切なこととして、模試で結果を出すことより「やり直しの徹底」を意識してほしい。あくまでも、模試はその時点で自分に足りないことが何かを見つけるテストだと私はとらえていた。周りに点数が高い人がいようと「これ全部やり直して解けるようになったら、この人越せるやん。」そんなスタンスだった。

2つ目、「何か熱中できることを持ち続ける事」。毎日、勉強勉強勉強……。私には無理だった。そんな時、気分転換に助けられた。初めは、それが部活であったり、ゲームであったり、ドラマやアニメであったりだった。しかし、ある時を

境に変わった。「英語疲れたから数学で息抜きしよう」「時間あるから単語帳開こう」……。私はこの境目が2年生の冬に来た。部活で先輩方が引退された頃だった。この境目は人それぞれかもしれないが必ず来るはずだ。

そして3つ目、「何事もやるからには全力で最後まで」。勉強、部活、遊び、食事、睡眠……。中途半端はもつたいたい。無駄な時間が増え、他のことまで疎かになる。やると決めたらやり遂げることを意識してきた。私が好きな歌の歌詞に「僕にとつての後悔は諦めたとき」とある。まさにその通りだと思う。

最後に4つ目、「受験は団体戦」。受験勉強は決して一人ではできない。私は、よく周りの友達と勉強を教えあった。教えあいは、互いに成長できるいい方法だと思う。また、勉強に伸び悩んだときは、こんな自分に協力してくれた人の顔を浮かべると、責任感から「頑張ろう」と思えた。本当に周りに助けられた。

勉強は学校で先生がおっしゃることをこなせば十分だと思う。しかし、「メンタル」は自分で養うしかない。受験に備えた「メンタル」を鍛え上げて、合格を掴み取って欲しい。最後に「Beyond the Theory」



国立大学法人

九州工業大学

「目標に向かって」

熊本大学 理学部 グローバルリーダーコース

(AO入試)

熊本学園大学付属中学校出身 I・T

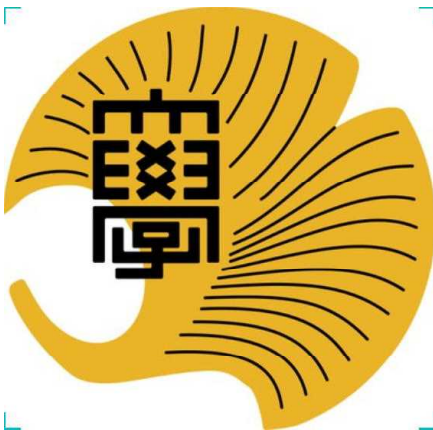
私の高校三年間の内、最初の一年は私にとってこの高校生活と大学受験を受けるにあたって重要な期間でした。

私は中高一貫生なので、高校一年生の時にクラス分けがありました。残念ながら最初は特進のクラスに入らず、そこで出だしを失敗させてしまいました。しかし、そこで次の年は特進のクラスに入るという目標を立て、勉強をする習慣をつけました。また、放課後の部活動はその勉強をして疲れたという時のリフレッシュになり、なんとか一年頑張ることができました。そして高校二年時に特進のクラスに入ることができました。

この一年間が充実したものでだったので、この後とても高校生活を楽しむことができました。しかし、その後私は一年の時の目標を達成し、次の目標をうまくたてることができず、ほとんど勉強をさぼってしまいました。そして、二年の最後あたりで大学を決めるとき、とても悩みました。しかし、三年に上がったとき、二年生の夏休みに参加した海外研修のことを思い出し、そこでここにしようとうと大学を決めました。その試験は早い段階で実施され、筆記試験の他に面接やグループディスカッションもあったので、急いで対策を先生方に協力してもらいながらしました。筆記の方は全く過去問がなかったもので、どの辺が出るという先輩方の報告書を参考に対策をすすめました。

しかし、私は面接やグループディスカッションがとてもだめだ先生に対策の協力をしてもらおうと同時にたくさんの迷惑を先生にかけました。そこで私は様々な中には私ができていなかったのうけたのですが、厳しい指摘も受けました。そうした中で何回か投げだしてしまいそうになりましたが、目標を達成するためのことが学べるそこに行きたいという気持ちから頑張つて対策を続けました。そして大学に合格することができました。

合格した後は先生方も含めてみんなおめでとうと言ってくれました。そこで改めて感じたことは、先生も練習のときは厳しいことを言っても、実際は生徒のことを思っている、その指摘も無事合格してほしい気持ちからなっている、ということ、きつても最後までやれば何か得るものがあり、その得たものはいつか自分を助けるのに役立つということ、です。また、勉強ももちろん大事ですが、勉強よりも大事なことがあります、そういったものを身につけるために、適度な休息と素直さが大事だと感じました。



「合格した方法」

熊本大学 法学部 グローバルリーダーコース

(AO入試)

武蔵中学校出身 T・S

私はどの入試にもある程度繋がると思われる、合格した二つの方法を、ここで紹介します。読む前に注意してもらいたいのは、あくまでも私の話です。皆さんは自分達の話を今から作り上げてください。

一つ目は「量」です。私は運悪く器用な人間ではありません、一つの問題に出合うと突破するのに時間がかかります。一つの技術を習得するのにも、人より二倍、三倍の時間がかかりました。そんな私はどのようにしたら受験というレッドオーシャンの中で生き残れるのか、長い時間迷いました。私は「量」で勝負することになりました。ここで「なりました。」と、表現をした理由は、私は受験が終わってから気が付いたからです。つまり私は「熱狂」していたのです。私は志望理由書をありえないと思えるほど書いていたのです。そのありえないと思われる志望理由書の「量」を、数字にあらわしました。数字は嘘をつきません。皆さんも自分の努力を数値化することをオススメします。

二つ目は「想い」です。受験前の私はこの「想い」という抽象的な語句の意味が分からず、沢山の合格体験記系の冊子を見ても、分かりませんでした。しかし、今は分かります。私は「この大学で学びたい想い」また、「国際協力に将来携わりたい想い」を持ち受験当日に臨みました。この熱い「想い」を持つことは、受験が終わるまでに遭遇する多くの挫折

を乗り越える力を、私達に与えてくれるのです。振り返ると、私は受験当日の前後に多くのハプニング、例えば体調不良に陥る等に遭遇したにも関わらず、最高のパフォーマンスができたと思います。最後に、文字数の都合でこの合格体験記で書けなかった内容も勿論あります。もっと知りたい方は、先生方や私に聞いて下さい。健闘を祈ります。



「推薦入試を受験して」

宮崎大学 農学部 応用生物科学科

(推薦 I・センターを課さない推薦)

京陵中学校出身 M・N

私は第一志望の大学に、推薦入試で合格することができました。これから受験を迎える人の参考に少しでもなるように、自分の受験についてまとめたいと思います。

私がやってよかったと思う点は二つあります。一つは授業に集中して取り組んだこと、もう一つは受験に自分が必要な分野を本やインターネットで調べ続けたことです。

私は運動部に所属していたので、試験前の休みが少なく、ほかの人よりも勉強できる時間が少なくなっていました。なので、授業を集中し、出来る限りその授業のただで覚えるようにする努力をしていました。そのお陰で成績を維持することが出来て、受験に必要な評定をとることが出来たのだと思います。

私の推薦入試の内容は、志望理由書・口頭試問・面接の三つでした。特に志望理由書と面接では、その学部・学科の内容をどれだけ知っているのか、またその内容にどれだけ興味があるのかを試されます。私は行きたい学科やその分野の知識を増やすために、勉強時間のほとんどをそれらを調べる時間にあて、面接でしっかり伝えられるように、得た知識や伝えたいことを全てノートにまとめ、言葉に出す練習をしました。そのお陰で入試の面接では、落ち着いてはつきりと話すことが出来ました。

逆に反省点もありました。推薦入試制度の存在を知るのが

遅すぎたことと、過去問だけに頼って勉強していたことです。

私は三年生になって先生に教えてもらうまで推薦入試が志望校にあることを知りませんでした。学校によっては推薦入試を受験できる評定が定められている所もあるので、一・二年生の中から知っておくとこれからの成績の目標も立てやすいと思うので、気になる大学は受験方式まで調べておく自分のチャンスが広がると思います。

受験する前に過去問は必ず見ると思いますが、必ず毎年同じ傾向だとは限りません。私は「過去問と同じ問題が出るのだろう」という甘い考えで口頭試問を受けた結果、予想外の問題が出てきて焦ってしまいました。予測を立てるのは大切ですが、予想外の問題が出ることも想定しておくのが最も重要だったと感じました。

最後に、私が受験を通して一番感じたのは、学付の先生方は常に私たちに全力で向き合ってくれているということです。忙しい中相談に乗ってくれたり、毎日面接の練習や書類の添削に付き合ってもらったりしました。学付の先生はそんな方ばかりです。一人では絶対にこの合格は無かったと思っています。皆さんも、先生方への感謝を忘れずに頑張ってください。

一人でも多い受験生が受験を笑って終えられるように願っています。合格目指して頑張ってください。



宮崎大学
University of Miyazaki

「当たり前のことを当たり前に」

佐賀大学 経済学部 経済法学科

(推薦Ⅰ・センターを課さない推薦)

菊陽中学校出身 R・A

パソコンの右端に自分の受験番号を先生と確認したときの衝撃を忘れられません。受験生の皆さんにもこの感動をぜひ味わってほしいです。私は推薦入試を利用し、佐賀大学を受験しました。そこで、私の経験や感じたことが少しでも受験生のこれからに役立てればと思います。

まずはじめに、当たり前なのですが志望動機をしっかりと持つことが一番大事だと思います。私の受験は出願時に学校の推薦書や志望理由などが必要で、受験時には小論文と面接が課されていたのですが、大学に入って何がしたいのか、どうしてこの大学でなければならいいのかというのを何度も考える機会がありました。私2年生の時に友人と参加したオープンキャンパスで興味を持ち、ただ漠然と入学したいと思っていました。だから、志望理由を先生に確認してもらったり、面接の練習をしてもらったりする準備期間に、自分が興味を持って入学したいと考えたきっかけをよく考え、小学生の頃から参加していた地元の交流会がきっかけでこんなことが学びたいと思っているという志望動機を明確にしていきました。そのためには大学につ

いても詳しく知ることが大事で、大学の施設やホームページをチェックしていました。

やっていてよかったことは、小論文や面接の練習を多くしたことです。小論文は小論文模試を学校で受けてリピート添削を受け、入試の過去問は取り寄せて解

き対策をするなど、書く回数をなるべく多くとりました。面接の練習は紫紺祭が終わった後に本格的に始め、先生と何度も練習をしました。緊張しても回を重ねるごとに自分の伝えたいことを多く伝えられるようになったと思います。そして部活動や委員会、提出物など、日常生活も大切だと思います。苦手科目や周囲がしている当たり前のようなことでも頑張ってきたことはすべて意外な場面で発揮されます。私の場合は面接で聞き返されたときに例を挙げることができました。先生方は提出物を出すようによく言われますが、改めて

大切だと気付かされ、頑張っていてよかったと思いました。私が合格できたのはきつと運が良かったただだと家族はいいますが、私は当たり前のようなことを当たり前に続けることが実は難しいのではないかと思います。今の皆さんに出来る小さな当たり前のようなことはたくさんあると思います。そのひとつひとつを大切に過ごしてほしいと思います。応援しています。

そのひとつひとつを大切に過ごしてほしいと思います。応援しています。



佐賀大学
SAGA UNIVERSITY

「受験勉強指南書」

熊本大学 医学部 医学科

(推薦入試Ⅱ・センターを課す推薦)

東町出身 T・M

合格体験記絵を書いてくれと頼まりましたが、正直何を書くのが正解なのかわかりません。だから、私がしていた勉強法と、後輩たちに伝えたいことを書こうと思います。

まず、受験するにあたって、最も大事だと私が思うことは、自身の計画を立てることです。自分で計画を立てるのが苦手な人は、先生に自分の志望校の話をすれば、適切な助言がもらえるはずです。

計画の話で、私が後悔していることを含めて話すと、腐るほど聞いたと思いますが、やはり高一の時に国英をしておくことは後から絶対楽になると思います。理由を言わないと高一の時は納得しないと思うので、理由をつけると、他の科目より自分でしやすいからです。英語は絶対にまじめな人が勝ちます。

高二の時には、地理、化学、数Ⅲなどの予習を全力ですることを勧めます。受験で戦う相手は、中高一貫の天才ぞろいで、ほとんどの人が高二次にはすべて終わっている事を忘れないでください。理系は教科書の終了に時間がかかることも頭の隅に入れておくといいと思います。高三になったらみんな勉強します。差をつけたい方は高二がチャンスです。私も高二の時に周りよりもアドバンテージを作っていたのがよかったのかもしれない。これは言って良いのか分かりませんが、私は「高二の九月から判定は変わりにくい。」とい

われていました。事実とは断言できませんが、嘘とも言い切れないことを伝えときます。

そして、高三はただひたすらに勉強してください。妥協したら負けです。センター対策はい

つかから始めるのか気になつて人もいると思うのでそのことについて書いておきます。

結論から言うと、自分でセンター対策はあまりしなくいいと思います。「嘘やん。」と突っ込まれるかもしれませんが、「マジです。」なぜなら、学校で嫌というほどするからです。何冊分かわからない量の問題を解きます。私がセンターの勉強を始めたのは十一月ごろからだったと思います。それまでは赤本解き等、二次試験対策をしていました。センター対策中も、せっかくなので二次力を衰えさせないためにも、ある程度は二次対策をしておくことをお勧めします。

最後に、勉強法は自分に合ったやり方があります。自分でいろいろ試行錯誤して見つけ出してください。勉強に才能はいりません。頑張ってください。



「強い気持ちをもちで勝ち取った合格」

熊本大学 教育学部 小学校教員養成課程

(推薦入試Ⅱ・センターを課す推薦)

楠中学校出身 M・S

私が第1志望に合格できた理由は、一言で言うると、「強い気持ち」を持っていたということだと思います。私が受験した推薦入試は、面接でした。センター試験は課しますが、得点率の割以上という出願条件であり、得点自体は反映されません。本当に面接の○○点だけで合否が決まる試験だったのです。

まずはセンター試験に向けての勉強についてです。私はバスケトボール部に所属していました。総体が終わってすぐにはなかなか受験生という意識も持てず、何からすればいいのだろうという感じでした。そこで私が最初に始めたのは英単語です。私は電車通学をしていたので、電車の中で英単語帳を開いて覚えしました。そのお陰で英語の長文は得意になりました。今振り返ると、小さなことだけれど英単語に取り組み始めたことで、1月、2月とスムーズに文法や長文の学習につなげることが出来たのだと感じます。またセンターについては基礎を固め、とにかく演習を積むことが大切です。とくに国数英に関しては時間との勝負でもあるので、時間を計りながら問題を解く必要があると思います。

そして何より一番思うことは、受験は気持ちが大事だということです。正直、私は、センター直前の模試であまりいい結果が出せず、頭の中はずっと不安でいっぱいでした。失敗したらどうしようと思いつつながらセンター試験を受験しまし

た。やはりセンター試験では思うように点数を取ることが出来ませんでした。しかし、何とか6割は越えることができました。熊本大学の推薦入試へは出願することができました。センターが取れなかった私にとって、この入試は唯一の第1志望へいくチャンスでした。さらに熊本大学に受かりたいという思いは強くなり、面接に向けてページ近くノートに大学についてや、自己分析、教育に関するニュースをまとめました。また、ある合格した先輩に「とにかく受験は気持ちだよ。」とアドバイスをもらった時、すごく抽象的だなあと思いました。でも絶対に熊本大学に進学し教師になりたいため、自分が絶対受かると思い続けました。また毎晩自分の受験番号があることを想像しながら眠りました。そして本番も自分が受からないで誰が受かるのかという強い気持ちをもち面接試験に臨みました。

このように、センター試験、推薦入試を終えた今、私が何より感じているのは、受験は気持ちが大事だということです。自分を信じ、試験当日の良いイメージを常に持ち、強い気持ちで取り組んでいくことこそが合格への鍵なのではないかと思っています。



「受験を経験して」

熊本大学 工学部 材料・応用化学科

(推薦入試Ⅱ・センターを課す推薦)

合志中学校出身 T・H

私は、三年生の夏までサッカー部でずっとサッカーばかりしていました。サッカー部を引退してから約一カ月間は、部活から解放され、自由な時間が増えていき、だからだとした生活をしていました。しかし、模試の結果や周りの友達が受験勉強をし始めている状況を見て、危機感を覚え、受験勉強を始めなければならぬと強く考えるようになりました。そして、夏休み前に塾に入り、本格的に受験勉強を始めました。

私はまず、苦手教科だった生物・英語の勉強に取りかかりました。生物は暗記力が必要とされる教科だったので、絵を描いて覚えめました。絵を描くことで複雑な反応の流れも同時に覚えることができたので、とても効率良く勉強することができました。英語は、特に長文問題が苦手でした。長文が読めないのは、英単語・英熟語・英文法を全く知らないからだと考え、毎日、英単語と英熟語を徹底して行いました。また、学校の休み時間を利用して、友達と問題を出し合ったりして、知識を定着させていきました。英単語と英熟語がある程度、完璧になると、文の和訳ができるようになり長文が読めるようになりました。ですが、まだ読めない文が所々あったので、英文法を勉強し、読めない文を少しずつなくしていきました。その結果、長文問題が得意となり、英語が得点源へと変わっていきました。

十二月に入り、センター対策を始めるようになりました。センターの過去問を解くうちに、生物や英語は点数が上がっていたけれど、得意だった数学が下がっていることに気づきました。だから毎日、英語・数学には触れるようにしました。私は、化学がとても苦手でセンター試験では捨てようと考えていました。しかし、捨てた分を他の教科だけでは補えないと考え、センター試験の約一カ月前から化学中心の勉強に切り替えました。

そして、センター試験の日を迎えました。初日は緊張しましたが、二日目はリラックスして受けることができました。センター試験の結果は予想よりも低い点数でした。ですが、私は熊本大学に行きたいと考えていたので、センターを課す推薦を受けました。面接と口頭試験があり、緊張のせいで上手く答えることができなかったけれど、運よく熊本大学工学部材料・応用化学科に合格することができました。

私が受験勉強で注意して欲しいことは一つです。それは毎日、全ての教科に少しでも触れておくことです。私は実際、得意だった生物に全く触れてなかったために、センター試験では満足のいく点数を取れませんでした。だから、偏った勉強をするのではなく、まんべんなく勉強することをおすすめします。



「目標に向かって」

熊本大学 工学部 情報電気工学科

(推薦入試Ⅱ・センターを課す推薦)

竜南中学校出身 Y・I

私が大学受験というものを経て感じたことを、この合格体験記という形で皆さんに少しでもお伝えし、役に立てることを願っています。

まず、一番大切だと思ったことは、自分の行きたい所を確立し、勉強をするということです。私はかねてから、熊本大学の工学部・情報電気工学科に行きたいという目標を掲げ、勉強を行ってきました。明確な望みがあることで「勉強しなければならぬ」というよりは「目標を叶えるために勉強する」という意志で勉強をしました。その結果、大学を志望する上で紆余曲折することもなく、勉強に打ち込むことができたのだと思います。しかしながら、成績不振などにより挫折しそうになることはよくありました。その時は、自分の成績が下がったとか、他の人と比べて劣っているなどと考えてしまい、悪循環を生み、思うように成績も振るいませんでした。私自身、先輩や先生方から、考えても意味のないということ聞き、理解したつもりでいても、本当に気づくことができたのはセンター試験間近頃。それからは、成績も伸びていきました。結果論かもしれませんが、精神的な面は大きく作用していて、自分と向き合うということがどれほど大切か、早い段階で体験して気づいてもらいたいです。

勉強面の話をすると、自分にとって苦なことや不得意なことを分析し、改善することに重きを置いていました。「分

からない」や「好きじゃない」といつて切り捨てるのはナンセンスで、苦手な教科や分野ほど、分かった時や問題を解けた時の達成感は大いだと思います。私は単純暗記があまり得意ではなく、また時間をかけて覚えたことも、一定期間が過ぎると忘れてしまうということも多々ありました。例えば英単語では、覚えるというよりも毎日見て慣れることを意識してやっていました。そのおかげで、苦手意識のあった英語も得点源にすることができました。

また、毎日すべての教科に触れることをおすすめします。一度できるようになったと思っても、一定期間が空いてしまうと解く感覚が鈍って解けなくなる、という恐ろしい事もありました。やっておけばよかったことは、計画を上手く立てるといことです。私は計画を立てたのは良いものの、なかなかそれになぞって進めることができず、断念してしまいました。計画があることで効率よく時間を使い、学習にも取り組めるはずです。月単位、週単位、日単位で、自分に合った計画を立てるのに時間をかけてもいいと思います。

受験生だからといって偉くなった訳ではありません。懸命に教えてくださった先生方、頑張ろうと励ましあえる友達、そしてなにより、辛い時も支えてくれた家族。いろいろな人の支えがあることを忘れてはいけません。感謝の気持ちを忘れずに、自分の目標に向かって頑張ってください。応援しています。



熊本大学
Kumamoto University

「部活を味方に」

神戸市外国語大学 外国語学部 英米学科

(一般入試 前期日程)

西原中学校出身 S・Y

私は弓道部部員としてインターハイに出場したこともあり、高三の八月まで部活を続けていました。そんな私の経験を生かして、主に部活と受験勉強の両立を目指す部活動生に向けてこの合格体験記を書きます。

まず、私が一番大事にしていたのは時間の管理です。放課後の時間をすべて勉強に充てることができない部活動生にとって、限られた時間をいかに上手に活用できるかがカギになります。私の場合、毎日自分で決めたタイムスケジュール通りに勉強するようにしていました。また、タイマーをカウントダウン方式で活用し、決まった時間は勉強に最大限集中するようにしていました。他にも、休み時間に単語の勉強をしたり、昼休みに図書室や自習室で勉強するなど、工夫して勉強時間を捻出していました。寸暇を惜しんで勉強する姿勢は引退後の受験勉強にも生かせます。

次に大事なのは意識的に勉強することです。ただがむしやりに勉強するより、自分はいまこの教科であと何点上げるためにこれをしている、ということを意識しながら勉強する方がはるかに効果的です。そのためには、自分の現状と志望校の傾向の分析が不可欠です。具体的には、志望校の傾斜配点や二次の問題を研究し、セクターの目標点を教科別に決め、それに相応する点数を模試でとれるように計画をたてた

りしていました。そして、模試の度に計画の見直しをして、次の模試の目標点を決め、その達成のためのノルマを月ごと、一週間ごとに設定してただ冗長に勉強するところがないように心がけました。点数は問題の難易度によって変動するので、偏差値も考慮に入れると良いと思います。

最後に私が一番伝えたいのは、部活を最後まで頑張ることは受験勉強においてプラスになるということです。部活を通して培った力は必ず自分の支えになります。私は心配性でネガティブ思考、お豆腐メンタルの持ち主ですが、弓道を通して身につけた、どのような状況下においてもやるべきことを淡々とこなすという姿勢を貫くことで受験期を乗り切ることができました。皆さんの中には、周囲が受験モードに突入する中部活を続けることに不安を感じている人もいることでしょう。大丈夫。これまで根気強く部活を頑張ってきたあなたなら必ず両立できます。ぜひ最後まで部活をやり抜いて目標を達成し、引退後はその熱量をすべて勉強につぎ込んで、第一志望の合格も勝ち取ってください！この合格体験記が一人でも多くの部活動生の励みになると幸いです。



「受験を終えて」

兵庫県立大学 国際商経学部 国際商経学科

グローバルビジネスコース

(一般入試 前期日程)

合志中学校出身 M・S

今、私が感じている幸福感や達成感を来年後輩たちにも味わってほしい。私の合格体験記がその糧に少しでもなればと思う。

まず、夏休みは苦科目を克服する最後のチャンスだ。実際に私も夏休みは苦科目しかなかった。私の苦科目は国語だったため、毎日国語の問題を何問も解いた。最初は文章に沿った選択肢がどれであるかやどこと一致していないから違うなど、全く分からずに解いていたが、一つの問題を分かるまでやり直しをしたり、多くの問題に触れたりすることで自信を持って答えを選ぶようになった。この夏の頑張りで国語の点数は50点以上も上がった。勉強は頑張った分だけ自分に返ってくることを改めて実感した。夏休みという機会を充分に生かすべきだと思う。

また、たくさんの先生に添削をお願いし、頼ることも大切だと思う。先生方の支えがなかったら、私もここまで頑張ることも自身の成績を伸ばすこともできなかったと思う。先生方の丁寧な添削が自分の知識だけでなく、やる気にもつながり、受験が終了するまでの力になった。添削をしてくださった先生だけでなく、毎日朝からラウンジを掃除してくださった先生にも感謝を伝えたい。

最後に、この大学受験を通して自分が一番学んだことは、「諦めない」ということだ。私は

国公立大学受験の前に私立大学を三校受験した。しかし、その三校の受験は全て失敗に終わり、国公立大学に合格しないと大学生になれない状況だった。私にとってはその時期が一番き

つかった。親への申し訳なさや合格できるのかという不安など色々な気持ちでいっぱいだった。しかしそんな時、まだまだ頑張ろうと思えるきっかけとなったのは、周りにいる友達の前で頑張っている姿だった。いつも塾で隣の席で勉強していた友達は、志望する大学の判定が決して良かった訳ではないのに、誰よりも自分を信じて、諦めずに頑張っている。隣で毎日見ていたので、その子がどれだけ努力しているかを知っていた。その姿を見ると自分が立ち止まっていることが恥ずかしく思え、最後までやり切ろうと決意することができた。「受験は団体戦」という言葉を中学生の時から何度も耳にしたことがあった。私は硬式テニス部に所属していたので団体戦で戦ったことがあった。個人競技の団体戦で大切なのは自分が頑張る姿を仲間に見せることで仲間の活力に変えることだ。これが私の受験にぴったりと重なった気がした。受験は周りの支えがなければやり通すことができないものだ。自分を支えてくれた人に感謝すると同時に、いま合格体験記を書くことができていることに感謝したい。



「北九州市立大学への合格体験記」

北九州市立大学 法学部 政策科学科

(一般入試 前期日程)

湖東中学校出身 S・T

私は前期日程で北九州市立大学の法学部政策科学科に合格しました。ですが、私自身最初から第1志望が北九州市立大学であったという訳ではありません。最初は熊大法学部を目指しており、勉強していく中で熊大法学部のレベルが想像以上に高いことを実感したものの、第1志望を変えずにセンター試験を迎えました。模試よりも簡単であると信じて受けて、運よく今までで1番いい点をとることができました。しかし、センターの得点で出した熊大の判定は相変わらず悪く、いつもなら判定が悪くても気にしていませんでしたが、さすがに本番だったので悩みました。1番いい点だったところでもこのまま熊大に出しても確実に落ちる。それでも熊大に出すのか、せっかく良かったんだから受かりそうなところに出すのか。私は後者を選びました。私の得点で受かりそうな法学部を探して見つけたのが、北九州市立大学の法学部です。その学部はうれしいことに、センターが3教科しかありません。私のように、苦手な教科があり5教科ではいいだけの3教科ならそこそこ点数あるという人にはもってこの大学だと思います。なのでそこに出そうと決めたものの、2次は別に得意でもない小論文。得意でない分、センター後はひらすら小論文に励んでいました。まずは北九州市立大学の過去問を解き、その後は似たような出題傾向の大学の過去問を1日1個は解くようにしていました。その他にも、解い

た過去問と関係ありそうな新聞記事を切り抜いて読み込み、時事問題にも対応できるように、出来ることはやりました。本番は本当に運がよく、集めていた新聞の内容をそのままかけるような問題だったので、これで落ちてもらう悔いはないというくらいは達成感がありました。そして、その書けたという達成感は裏切られることなく無事合格。これが私の合格体験です。

この合格は新聞のおかげといっても本当に過言ではありません。社会系の学部で小論文がある人は是非新聞を読んで下さい。些細な記事でも大きな助けになるかもしれません。センター利用で私立を併願する人へのアドバイスは、得意科目を作ることです。私立は必要科目が少ないので、得意科目が1つでもあった方が得します。合計点が同じでも、平均的に取るより1科目でも飛び抜けて点数がとれる科目を持つていると本当に有利です。

そして、私自身、1番きつかったのはセンター試験までです。模試では全然いい点取ることができない。余裕なんて微塵もないのにどこか余裕な自分がいて、そんなに頑張れない自分が嫌でした。模試が1つ終わればやり直しに励み、得点源にしたかった世界史をひたすらやっても全然点数は上がらない。そしてまたすぐ次の模試がやってくる。そんなどんだんやる気がなくなっていくような毎日だったけど、勉強をやるわけにもいけません。今思うと本当にきつかったです。でも、その中でもここまで頑張ったのは周りの支えがあったからです。本当に泣きそうな時の友達の励ましほどこい支えはないと思います。これからの1年本当にきついかもし

れません。途中でやめてしまいたくなったその時は、それまで何のために頑張ってきたのかを思い出して下さい。今までの頑張りを全て無駄にして、勉強をやめるのか？それともあと少しと思つて頑張るのか？こう考えるとあとちよつと頑張ろう！と思えると思います。永遠には続かない！！いつか必ず終わりは来る！！
そう思つて今年1年頑張つてください！

「大学受験を終えて」

九州大学 教育学部

(一般入試 前期日程)

西合志中学校出身 Y・K



大学受験を終えて、私がやつていて良かったと思う勉強法やアドバイスを伝えようと思います。これから述べることは少しでも皆さんの役に立てるなら幸いです。

まず、勉強の計画についてです。私が大事にしたのは、計画を立てる前にとりあえずやってみるということです。計画を立てるには何がどのくらいで終わるという時間配分が大切です。私は、その時間配分が不明な中で漠然と計画を立てても、目標に達するのは難しいと思います。それよりも、少しやってみて1ページにこの時間かかるから全体としてこのくらいの時間だろう、という風にしたい方がより正確な時間を得られます。当然の話に見えるかもしれませんが、定期テストなどの時に計画作りから始める人はいるのではないのでしょうか。私もかつて自分でできる量を知らずに計画を立て、途中で挫折したことのある人間です。このようにならないために

も、是非試してみして下さい。

次に、テストで成果を上げるための訓練についてです。私は「思い出す」方法を大事にしました。テストでは問題文のみから答案を作らなければなりません。そこで、普段から授業の問題文だけを見て答案を思い出し、自力で頭の中で答案をイメージするという方法です。これができるかどうかでテストで解けるかが分かり、苦手な問題への復習に多くの時間を注げます。「思い出す」ということは思っている以上に大きな恩恵を与えてくれたと思います。応用の仕方はたくさんあると思うので、自分に合った方法を見つけてみて下さい。

ここまで、具体的な勉強法について書いてきましたが、最後に受験勉強についてのアドバイスをしたいと思います。まず、目標を決めて下さい。私は目標はなるべく大きく、魅力を感じるものがいいと思います。でなければモチベーションが続かないからです。次に、与えられた時間の中で最善を尽くして下さい。私は高校入試で第一志望校に不合格でした。その時と今の自分の違いはやはり自信だと思います。自信を得るためには残された時間を精一杯頑張ることだと思います。もちろん自信があれば必ず合格できるとは限りませんが合格に近づけると思います。この自信を得るチャンスは平等です。合格が欲しいなら、今からやり続けるべきだと思います。

長くなりましたが、これらの内容は部活動生もそうでない人にも通じる内容だと思います。時間は平等な以上、いかに早く始めるかと、どれだけ上手く時間を使えるかに合格は左右されます。最後まで諦めずに頑張ってください。

「学付を信じたから」

九州大学 芸術工学部 工業設計学科

(一般入試 前期日程)

藤園中学校出身 S・F

まず私の原動力になったのは、志望校への強い思いです。高二になり、将来やりたいことも無く漠然と焦っている時期に、担任の先生から九大の芸工を薦められました。『芸術工学』は初めて「学びたい!」と思える学問でしたが、その時はさすがに「私に九大は無理っしょ(笑)」と思いました。でも、いろんな大学を調べていく中で「やっぱり自分にはこしかなない」という思いが強くなり、(芸工は大学、学科によって学ぶ内容大きく変わります)そこから二年間、九大一筋で勉強しました。目標があるだけで勉強のモチベは全然変わります。学力はまあまあだったけど、志望校に懸ける思いは誰にも負けませんでした。私立は受けず浪人覚悟で出願したので、最後まで九大の試験勉強だけに集中できました。

私は兼部+習い事をしていたので勉強との両立は大変でした。特にダンス同好会は10月の紫紺祭に向けて夏休みも練習があるため、周りが必死に勉強している間、部活をするごとに正直不安がありました。でも、おかげで毎日にメリハリがつき、時間の大切さ、上手な使い方も学びました。前夜祭でのステージは一生の思い出になったし、部活を通じて得られた達成感と自信は受験にもつながったと思います。

断っておきますが、自分はずば抜けて理系が得意たり、特別な参考書を使っていたわけでもありません。ただ学校の「授業」と「自習」を大切にしていました。課外は全部とり、ほ

ぼ3年間前の席で授業を受け(周りに友達がいたから結構楽しかったです)、眠らないように授業前に栄養ドリンクなどカフェインを飲んで、内職はせずに集中して取り組み、よく質問に行きました。とくに3年理系は文系教科を勉強する暇がほばないので、なるべく授業中で完結させるようにしていました。紙とペンがなくてもできる勉強を見つけ、合間に楽しみながらやっていました。英会話を習ったのも良かったと思います。

時間に余裕がなかったので塾は行かず、夏から近所の自習室に通い、そこで学校の復習だけやっていました。入試前に先生が用意したテキスト(良問詰まっています!)を解きまくったおかげで、最後の最後で伸びることができました。参考書はあまり買っていないません。もちろん相性はありますが、学付の授業を信じて勉強すれば、塾に行かなくても十分合格できると思います。

受験はきつい、辛いものだと思っていましたが、ポジティブな発言を心がけ、毎日友達とお昼食べながら爆笑していたおかげでストレスをためず、意外と楽しい1年を過ごすことができました。二次前は自分の周りの凄さを実感して辛い時期もあったけど、先生からの励ましや友達の応援が自分を支えてくれました。高校で落ちてるので、初めて合格掲示に自分の受験番号を見つけた時は嬉しすぎて泣けました。大学受験は、素直で謙虚に頑張った人いい結果が待っています。誰でも努力する姿はカッコいいです。是非成長の1年にしてください!

「自分に合った方法で」

福岡県立大学人間社会学部人間形成学科

(一般入試 前期日程)

白川中学校出身 M・S

私なんかの体験が、今後大学入試を控えている皆さんの力になるか分かりませんが、私が大学受験の勉強をする上で大切にしていたことを2つ紹介したいと思います。

まず1つ目は、メリハリをきちんとつけることです。私は、長時間集中して勉強するというのが苦手だったので、頑張れる時間を決めてその短時間だけ集中して勉強するようにしていました。また、意思の弱い私は、スマホやテレビの誘惑に負けて勉強に集中できなかったもので、家では勉強しないようにしていました。学校が終わるとそのまま塾に向かい、閉館まで塾で勉強し、家に帰ってから自分が好きなことをするように決めて頑張っていました。休日は、図書館やカフェなどいつもと違う場所で勉強するのも、気分転換になるのでおすすめです。勉強に疲れたときは、息抜きすることも重要です。私は、放課後に友達とおしゃべりすることが大好きで、いつも「また勉強頑張ろう」と思っていました。今考えてみるとすごく大切な時間だったなあと思います。あと、息抜きとはちよつと違うかもしれないですが、学校の行事は絶対楽しむべきです。これは自信を持って言えます。私は、後夜祭のステージ発表に出ましたが、楽しすぎて本当に出て良かったと思ったし、高校生活の大切な思い出になりました。少し話がそれてしまいましたが、このように、勉強と息抜き

のメリハリをしつつ取り組めたことが、私が勉強を頑張れた一番の理由だと思います。

2つ目は教科によって取り組み方を変えることです。私の場合、苦手な教科は毎日触れるように意識していました。さらに、できるだけたくさんさんの問題を解

いて、分からないところは先生や友達に自分が納得するまで質問し、自力で解けるようになるまで何回も同じ問題を解く、というのを繰り返していました。その甲斐あって、センター試験では苦手な数学で過去最高点を取ることが出来ました。得意教科は問題演習を中心に言い、その後のやり直しに時間をかけることでそこまで時間をかけずに点数を伸ばすことが出来ました。苦手教科の点数を伸ばすことも大切ですが、得意教科の勉強も大切です。得意教科を伸ばすことで、もし、本番で失敗してしまってもカバーすることが出来ます。そのため、自分の得意不得意に合わせて取り組み方を変え、どの教科も満遍なく勉強することが大事だと思います。こんな私が合格できたのは、友達や先生方、そして両親の支えがあったからで、私一人では到底成し得ないことでした。皆さんも、自分に合った方法を見つけて希望の進路に向かって頑張ってください。この合格体験記が、少しでも皆さんの力になれば嬉しいです



「合格体験記」

熊本大学 法学部 法学科

(一般入試 前期日程)

東町中学校出身 R・S

私は3年の6月頃に推薦入試を受けようと決め、受験しました。将来したい仕事のためにそのクラスで学びたいという思いもありましたが、「11月末には決まるし、早く終わらせて免許取ったりバイトしたい」というのが1番の理由でした。それに落ちても前期あるしワンチャンうかればいいくらいに考えてたため、私は結構本気で準備していたつもりでしたが他の受験生と比べ本気度が全然違って結局落ちてしまいました。

紫紺祭後から推薦終わるまで、推薦の準備とかで授業以外で勉強することが無くなり少し成績が下がりました。推薦終わってからも勉強のやる気が抜け落ち、スイッチも入らず唯一の勉強時間である放課後とかも友達とずっと喋って時間を過ごしたりしました。冬休みくらいからやる気が出て勉強モードに入っただけ1週間前は謎の余裕が出てまたグダってしまっただけセンターは何とか乗り越えました。センター終わった後は受験が終わったかのような開放感があるんですが、私はその開放感に身を委ね1週間くらいみんなでボーリング行ったり荒野して夜更かししたりと勉強もせず遊んでしまいました。二次対策の課外が始まり、やっと勉強のスイッチが入り二次に向け対策を始めていきました。こんなふうには私は中だるみが多かったような気がします。中だるみすると後々響いて大変な思いをするのでこっこつ頑張っていくのが

いいと思います。それにあの時やつておけばあと後悔します。私が大事だと思うことは1・2年生の時に定期テストをしっかりと勉強して受けることです。私も定期テストなんて受験にでるような問題でもないしただの暗記ゲーと考えているような人間ですが、疎かにせずしっかりと勉強して受けてきました。その理由は定期テストは基礎が出来てるか確認するためのものだからこれくらい取れなきゃダメだと思っていたからです。古典の文法とかやる意味ないように思えるけど、3年になるとその大事さが分かりやつておけばよかったと後悔します。だから手を抜くことなく定期テストは受けた方がいいです。また、センター対策や二次対策も学校がしっかりとくれます。塾に行つてなくてもしっかりと学校のものをこなしていれば8割くらいはとれます。私は記述対策用に問題集をいろいろ買つてそれで手一杯になつて2次の赤本もろくに解く時間もなく受験をしたのですが熊大は学校でしっかりと対策してくれて、そのおかげで何とか受けることが出来ました。他の大学は熊大みたいにピンポイントでの対策はないので赤本はちゃんと解いておいた方がいいと思います。

最後に、学校の模試だけでなく東進模試や河合等のしている○○大入試ブレなどは積極的に受けに行くといいと思います。東進模試はセンターのある会場を転々としてあるので会場慣れすることが出来ます。入試ブレは自分が受ける大学のものがなくてもどこかの大学のものを夏くらいに1度受けるいいと思います。2次はどこの大学でも難しいです。その事が入試ブレで体感できるし、これから乗り越えようとする壁がどれくらい高いのか分かり勉強のやる気につながると思

います。受験勉強はきついことも多いと思いますが、休む時は自分の好きなことをしたりして息抜きして、勉強する時は勉強してメリハリつけて頑張ってください。

「合格への道のり」

熊本大学 教育学部 小学校教員養成課程

(一般入試 前期日程)

西合志南中学校出身 M・K

私は高校二年生から文系選抜クラスに在籍していました。選抜クラスに入ると原則として課外を受けなければいけない。そのため初めの頃は、自分の勉強時間が取れないのではないかと不安でしたが、多くの問題を解く課外は、とても意味のあるものでした。また、朝夕の時間を課外に使った分、休み時間や課外の前の時間などにすきま時間を見つけて授業の予習や復習をする習慣ができました。限られた時間の使い方を考えるようになり、効率良く学習できるようにもなりました。私は部活動を七月の終わりまで続けており、他の人以上に勉強に向き合う時間が少なかったため、この「効率の良い勉強法」が合格のための重要な鍵となりました。

私が具体的に目標にしていたのは、センター試験と志望大学の二次試験の過去問を十年分ずつ解くことです。回数を重ねるごとに時間配分や自分なりの解く順番も定まってきました。苦手な教科は授業で扱った年以外のものも解くことで他の教科との差を縮められました。また、たくさんの問題をこなすだけでなく、解けなかった問題を丁寧にやり直して一冊

のノートにまとめ、試験の直前や通学中の電車の中で見直すことで、点数に繋げることができました。

私の合格した小学校教員養成課程にはセンター試験を課す推薦という入試方式がありました。センター試験では、目標よりも高い点数を取ることができたのですが、私の受験した学科の推薦入試にはセンター試験の点数は直接反映されず、結果は不合格でした。また、前期試験も同じ学科に願していたため、もう一度気持ちを立て直し、前期試験に臨む必要がありました。前期試験では再び面接がありました。推薦入試のための練習をしていたおかげで気持ちに余裕をもって受けることができました。また、二次試験のために勉強してきたことを発揮できる、と前向きに考えるように心掛けました。何より、私が推薦入試の後にうまく気持ちを切り替えることができたのは、絶対に熊本大学に行きたいという強い意志があったからです。将来の自分の夢に近づくためにも、熊本大学に進学したいという思いを曲げることは絶対ありませんでした。

受験を通して、自分の合格を信じてくれた先生方や両親、友達存在は、私を励まし支えてくれる大きな力となりました。受験勉強をしていると思うように結果が出ず投げ出してしまいたくなることもあると思います。しかし、決して諦めず志望校に合格したいという強い気持ちをもって頑張ってください。



熊本大学
Kumamoto University

「私が意識したこと」

熊本大学 教育学部 中学校教員養成課程 理科専攻

(一般入試 前期日程)

三和中学校出身 J・S

私は、受験生の皆さんに少しでも役に立つことを願って、この体験記を書こうと思います。私が伝えたいことは主に三つです。

まず一つ目は、自分に合った環境を見つけることです。私の場合、塾に行ったことがないので、自分の部屋がそうでした。朝型の体質であることもあり、毎日帰宅後はできるだけ早い時間に寝て、早朝に勉強していました。このような環境を持つことで、切り替えがスムーズになり集中できます。もし、まだそのような環境を見つけれないのであれば、学校だけでも図書室やラウンジ、自習室などがあるので、早いうちに見つけてください。見つけた場合、最後までそこでやり通すことをおすすめします。

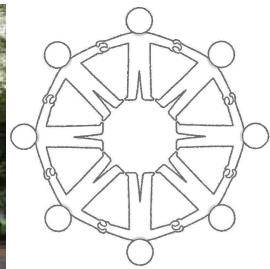
二つ目は、失敗を生かすことです。全員に共通するものとしては、復習を怠らないことだと思います。私は、やり直しノートを作ることをおすすめします。これがあると、同じような問題や単語が出てわからない時に見直しやすく、間違っただものの印象を残しやすくなります。まだ時間があるので、焦らず丁寧に作ってください。そして、少し限定されませんが、面接がある人は失敗したことも振り返ってください。その失敗から学んだことが、役に立ちます。私の場合、部活の副主将としての経験が、いい材料になりました。面接がある場合は、過去の経験をまとめておき、練習を何度もしてくだ

さい。

三つ目は、協力することです。

これが一番伝えたいことで、とても大切だと考えています。皆さんは、これからたくさんの挫折を経験すると思います。私が一番挫折を感じたのは、推薦に落ちた時です。受からないものとして出願しましたが、倍率も低くセンターの点数もよかったので、期待すると言われても期待は膨らみませんでした。不合格を報告するときは、先生も周りの友達も信じられないという様子で、私は期待されていたことを実感させられました。期待を裏切ったような気持ちは挫折の理由としては十分です。そんな時、私を前向きにさせたのは同じ夢を持ち、支え合ってきた友達です。きつと受験は、一人では乗り越えられません。上がらない模試の判定や解けない問題など、壁に衝突したら迷わず、一番頼れる人に話して解消してください。その人は必ず、あなたを救ってくれます。

こんな稚拙な文章で参考になるかわかりませんが、皆さんが志望校に合格することを心から願っています。最後まで諦めず、自分ではできると信じてください。



「強い気持ち」

熊本県立大学 文学部 英語英米文学科

(一般入試 前期日程)

武蔵ヶ丘中学校出身 A・K

私の逆転劇を語りたい。

高校受験に失敗した私は、この学付に入学し3年後次こそ絶対合格すると胸に誓っていた。私はまずセンター試験を課さない推薦入試を受けた。約2か月間周りの友達がセンターに向けて着々と準備を進めている中、私は小論文、志望理由書、面接の練習に時間を費やした。

評定にも自信があったため、合格できるのではないかという期待が少しはあった。しかし、結果は不合格。センターまでの時間はなく、落ち込んでいる暇などないとわかっていながらも、ダメージは大きかった。皆から遅れているという焦りと不安しかない状況の中、切り替えようと決めた。そして残り1か月と少し。センターに向けて本気で勉強した。しかし、センターでも結果が出せなかった。どの判定でもE判定を見せつけられた。現実には甘くない。やっぱりいつも私はだめだ・・・もうどん底だった。しかし、後悔だけはしたくなかった。志望校の変更を進められたが、最後までやり抜きたい、その一心で第1志望校を貫き通した。そして約1か月。周りで合格者が出ていく中、複雑な気持ちを抱え、精神的にきつかったが、自分を追い込み、一心不乱に勉強した。そして不安しかなかった気持ちだが、ここまでやったから合格できるという自信に確かに変わっていった。ついに自分の力を本番で出し切ることができ、私は逆転合格できた。やっと努力

が報われた。初めて自分の受験番号が貼り出されているのを見た。言葉では言い表せないくらいの嬉しさだった。あきらめずに頑張った。良かったと心から思えた。とにかく私が1番伝えたいことは最後まであきらめないことが大切だということだ。どんなに途中で失敗しても最後の最後に笑えるように自分を信じ今の自分のできることを精一杯やる、それが1番大切だ。第1志望校に行きたいという強い気持ちさえあれば絶対に合格できるということを伝えたい。きつい時期をお互いに支え合い、乗り越えた。私の受験を自分のことのように応援し、私の合格を自分のことのように喜んでくれた友達。厳しい状況でも最後の最後まで私を信じ、心の面でも体の面でもサポートしてくれた家族や先生方。本当に感謝しかない。あの高校受験の悔しさから3年後のリベンジ!!

大好きな学付、ありがとう。



熊本県立大学

「大切なこと」

熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学科

(一般入試 前期日程)

城西中学校出身 F・K

この合格体験記を通して私が受験において大切だと感じたことを綴ります。

一つ目は焦らないことです。これは準備期、本番にかかわらず、です。私が本格的に受験勉強を始めたのは部活を引退してからでした。それまでは勉強には手を付けていなかったのですが6月の模試では、英語や理科基礎は半分もいかず、他の教科もまだまだ志望校には届かない結果でした。しかしナイーブにはならず、始めたばかりだからまだまだ伸びしろがある！と思って勉強を続けました。：ですがまあ受験半ばになってくると、成績は伸び悩んでいきます。内心私はこの調子で間に合うのか？と正直焦っていました。でもそんな時は自分を騙してください。大丈夫だ、必ずいけるはずだと暗示したら本当にその通りになります。私は友達と話して不安を共有し、お互いに励まし合っていました。とても力になります。

二つ目は得意科目はとことん極めることです。私は世界史が大好きだったので、世界史で点を稼ごうと思いセンターで満点を取るつもりで勉強しました。暗記してもすぐ忘れるので、センター本番に焦点を当てて11月頃から集中して取り組みました。おかげで結果は満点とはいきませんが、1週間遅えでかなりの得点源となりました。得意科目に時間をかけるのは不安はありますが、自分の強みとなります。

最後に私の気持ちの面での話をします。私が母に「志望校

落ちたらどうしよう」と何気に聞いてみると、母は「どんな結果でも自分にとって良い方向に進むはずだから、どうでもいい」と言いました。この言葉には結構救われて、希望していない結果となつてもそれが自分にとって良い道だということなんだと思うと、

肩の荷が下りたように気持ちが一変しました。

すみません精神論みたいになってしまいました。しかし受験は気持ちとの闘いでもあると思います。受験に不安や苦悩はつきものです。でもそんな時は友達や先生、親に話してみてください。きっと支えてくれると思います。下手な文章ですみません。受験頑張ってください！



「合格に近づくために」

鹿児島大学 法文学部 法経社会学科 地域・経済

(一般入試 前期日程)

出水南中学校出身 D・K

私はサッカー部に所属していました。1、2年の時は勉強をほとんどしていませんでした。テストが近くなると丸覚えして、テスト1週間後には覚えたことは抜け落ちていて、そんな勉強をしていました。ただ、そんな私でも大切にしていたのは普段の授業です。なぜなら、先生方は私たちにできるだけ分かりやすいように工夫された授業をしてくださり、先生方の技を盗むことが学力を向上させるために1番の近道であると考えていたからです。授業中、睡魔が襲ってくることはありますが、そこで簡単に寝てしまうのではなくて少しでも自分のものにする。その積み重ねが受験のときに確実に自分をフォローアップしてくれます。また、受験生になっても強く感じるようになったのは復習することの大切さです。

1、2年生の時から毎日10分でも各教科の復習をしていたら、ぜんぜん違ったんだろうなと受験生になり身に染みて体感しました。1回で覚えられる人なんてほとんどいません。うる覚えな部分を復習することがどれほど大切なことか気づくタイミングが早ければ早いほど志望校合格にぐっと近づけると思います。この2点を意識できれば塾に行かずとも学校から与えられたことを淡々とこなすだけで合格はつかみ取れると思います。

ここからは私が実際にやっていたオススめの勉強法を3つ紹介します。1つ目は英語に関してですが、先生方がよく音

読をしなさいとおっしゃられると思いますが私自身もその日に解いた長文を毎日寝る前に3回、意味を思い浮かべながら音読することになった気がします。2つ目は小さなノートです。これはどの教科でも使えるのですが、わからなかったことをすぐにメモする習慣をつけるとよいです。自分はこのノートを6、7冊持っていました。書き出すことで自分のわからないポイントが浮き彫りになり前述した復習も効率よくすることができました。3つ目は授業中解く問題に対し1問も落とさないことだわりを持って取り組むことだと思います。熟考すればわかる問題

かもしれません。また普段からこういう習慣を身につけておけば、本番わからない問題を前にしても焦ることなく対応することができます。受験生を体験して強く感じたことです。ぜひみなさんもこの3点を実行してみてください。

また、受験は長期戦なので息抜きも大切です。仲間と助け合い笑顔で春を迎えられるように頑張ってください！



「横浜国立大学の合格体験記」

横浜国立大学 理工学部 機械材料海洋系学科機械工学

(一般入試 後期日程)

益城中学校出身 T・M

私は、ある大学の前期日程に不合格し、何とか上記の大学の後期日程に合格でき、進学することになりました。志望校落ちたことはとても辛かったが、周りの友達や先生方からの励ましのおかげで私は受験を乗り越えることができたと思います。

私が工学部に行きたいと思ったのは、太陽光発電などのエネルギーの分野からたくさんの人の手助けをしたいと思うようになったからです。私が受験勉強を続けることができた一つの理由はこの目標があったからかなと、今振り返ると思います。

私は受験勉強は、「一人でたくさん問題をこなしていくこと」だと思っていました。しかし、私の場合はその意識のままだったら、絶対に途中で勉強をやめていたと思います。どれだけたくさん問題を解いてもわからない問題はどんどん出てくるし、一人だと苦しいときも踏ん張れなかったと思うからです。

私はある時から、勉強を友達と一緒に勉強するようになりました。そのことで、友達が頑張っているから自分も頑張ろう、という意識が強くなり生まれ、勉強の途中で寝ることが格段に少なくなりました。また、私は早起きが苦手だったので、朝も友達と早起きをして、課外の前に勉強するようにもなりました。一緒に頑張る友達の存在は私にとってとても心

強かったです。

また、問題との向き合い方も、たくさんさんの問題を解くことより、一つの問題や考え方についてゆっくり考えるようになりました。時にはその科目の勉強時間のほとんどを一つの問題に費やしていることもありました。このおかげで、初めて見るような問題でも、解き方を思いつくことが多くなっていったと思います。

最後に私が失敗したと思うことは、最後まで自分に自信を持つことができなかったことです。不安な気持ちのまま本番の試験に臨み、そこでとても難しい問題に出会ってしまい一気に焦り、試験中は終始そのままでした。なのでこれから受験を控えているみなさんには、「これだけやった自分がわからないなら、他の受験生もわからない」というくらい自信を持って試験に臨んでほしいと思います。

冷静を保ち、自分の実力を発揮できれば絶対に志望校に合格できると思います。頑張ってください！これを読んでいる人の活躍を祈っています。



YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

「逆転合格」

鹿児島大学 農学部 農業生産科学科

(一般入試 後期日程)

湖東中学校出身 K・M

自分がこの合格体験記を書くにあたって、自分の受験を振り返ってみると、様々なことがあり、長いような短いような受験期間だったと思います。

まず、自分は前期不合格でした。自分は不合格とわかった瞬間、自分の行きたかった大学に行くことができないんだと思い、自然と涙が溢れてきました。そして、後期試験を受ける大学の判定がE判定だったこともあり、受かるはずないと自分で思ってしまった、二度も同じ思いをしたくないと、後期試験へと気持ちを切り替えることがなかなかできませんでした。しかし、学校で先生や友達に相談してみると、先生は親身になって話を聞いてくださり、友達みんなからは「諦めるなよ」と力強い言葉をもらえたおかげで、自分は後期試験に切り替える事が出来ました。だから、これから受験を控える方達は何か不安なことがあっても先生方や友達に相談してみると、良い方向に進んでいくと思っていきたいと思います。

自分は後期試験で小論文を書くことになったのですが、これは人それぞれだと思いますが、最初自分は後期は小論文よりも面接で試験が行われる大学を受験しようと思っていました。センター試験後の三者面談で担任の先生から「小論文だと逆転があるからそっちで受験しなっせ。」と強く勧められて小論文で受験しようと決めました。しかし、自分には全く最初文章を書く能力がなかったので、小論文を書いては学校

に行き、先生が丁寧に指導してくださいました。そのおかげで本番でも小論文を書くことができるようになったと思います。そして、これから受験生になる皆さんに心得て欲しいことがあります。

1つは、何事にも一生懸命に取り組む真面目に行うことです。朝起きるのが辛いから朝課外をサボったり、学校を無断で欠席したりしてしまおうと自分の大切な時に自分の思った以上の力を発揮する事が出来ないと思いますし、逆転合格など出来ないと思います。

もう1つは授業中に疑問に思ったことは1人で考えずに先生方や友達に質問をすることです。自分はよくわからないところがあると友達に質問しました。質問することで友達と一緒に考えて考えることができ、今まで1人では思いもつかなかった事も教えてくれることもあるのでこのことによつて考えが深くなっているような気がします。

これから受験する人達は「学付」という良い環境があるので上手く活用していき、最後の最後まで諦めずに頑張ってください。



「自信」

天草広域連合消防本部・東京消防庁・熊本市消防

本渡中学校出身

T・Y

『受験』。それは、高校生活の全てといっても過言ではない。高校三年間の最大の目標であり、それと同時に新たなストーリーの滑走路でもある。皆さんは、その『受験』まで、残り一年をきっているのだ。先生は、言う。「受験にスタートラインはない。早くスタートした者勝ちだ」と。その言葉が、いかに大事な言葉だったかに気付いたのは、部活を引退してから本格的に勉強を始めた試験二か月前だった。このままでは絶対間に合わないと自分自身思った。そこから私は、生活そのものを試験に繋げていった。

まずは、単純に勉強時間を増やした。一日最低12時間、やる気がある日は、15〜16時間していた。しかし、これだけすれば過度にストレスが溜まる。だから私の中で、「休憩時間は何でもしていい」「プラスαの勉強は、無理にはしない。やる気がある時だけ」という2つのルールを決めてやっていた。勉強は、正直きついと思う。だから勉強時間以外でいかに、きつさを自分なりに和らげるか、楽しくできるか。それが努力を継続させるうえで、大切なことだと思う。私たちは、ロボットではないのだから同じことを同じ力で続けることは、大変困難だ。そこは割り切って、勉強していない時間は、とことん楽しむのもアリだと私は思う。

しかし、受験は、ただたくさん勉強すればいいという話ではない。定期考査は、一夜漬けで乗り越えられる人もいるだ

ろう。だが残念。受験と定期考査は、出題範囲が桁違いだ。私の受けた公務員試験の場合、範囲は大体高1程度までだが、教科数が学校で習うものの、習わないもの合わせて30科目程ある。だから、受験では、膨大な記憶力と、それを継続的に記憶する力が必要である。その力を発揮させるのに大切なことが2つある。1つは、『睡眠』である。人間は寝ないと、長期的に記憶することは難しい。私は、睡眠と勉強のバランスをとるのが一番大変だった。もつと勉強したい。でも、寝ないと覚えれない。毎日、この葛藤をして、睡眠を優先していた。結果的に、それで良かったのかもしれない。

もう1つは、『反復練習』だ。真新しい問題をやるのもいいが、それは反復練習をして自信をつけた後がいいだろう。私は、1冊300〜400ページの参考本約20冊を多いもので10周、少ないものでも5周はした。繰り返すことは、本当に大切だ。

試験の日までに、これでもかというくらいやった私は、当日も自信に満ち溢れていた。その後の体力試験も面接も、その自信を武器に乗り越えた。結果、東京消防庁、熊本市消防、天草広域連合消防本部の3戦を全勝で飾ることができた。

最大の武器は、『自信』だと思う。

私は皆さんに、『夢のためなら努力を惜しまない人』になってほしいと願う。



編集後記

毎年、この時期になると、卒業生諸君との別れに一抹の寂しさを感じつつも、将来に向かって羽ばたく姿を後ろから眺めながら、いつの間にかとても頼もしくなった卒業生諸君の後ろ姿に感動を与えてもらっています。

さて、昨今の社会の変化においては、AI技術を初めとする第4次産業革命によって、我々は、人類史上5番目の新しい社会を経験しつつあります。つまり、狩猟社会→農耕社会→工業社会→情報社会に続いて、Society（ソサエティ）5.0と呼ばれる5番目の社会のことです。また、国連が掲げた「持続可能な開発目標(SDGs)」のための2030アジェンダを構成する17のグローバル目標に向けた、国際的に包括的なパートナーシップの活性化が急務となつてきております。そういった社会背景からの高校教育を取り巻くニュースと言えば…

- ・ 高大接続改革
- ・ 大学入学共通テスト
- ・ 英語4技能
- ・ 新しい時代に求められる資質能力の三要素
- 「知識及び技能」の習得

「思考力・判断力・表現力等」の育成
「学びに向かう力・人間性等」の涵養
…などなど、急激な変化が渦巻き始めてます。

2020年問題などと言われるこれらの改革に関しては、2020年に起こることではなく、既に変化の真っ最中なのです。このことは、私立大学定員充足率の厳格化や、国公立大学のAO・推薦入試枠の拡大等々、実際の可否追跡調査か

ら見られるデータにも如実に現れております。

そこで、今年度の本校の卒業生にも見受けられた事として、大変顕著であった件としては、模試判定でD判定やE判定から大逆転により合格を勝ち取った生徒が、例年に比べて、数多くいたのも事実です。その特徴としては、面接や小論文や探求型の問題といった、「正解」を素早く求める従来の知識重視型の試験ではなく、「納得解」を正確に他者へ説明する技量が求められる試験が多く見受けられました。

大逆転による合格報告は周囲を大きく驚かせる事ですが、その大きな反応とは真逆に、面接指導や小論文指導の教員からは、驚く反応があまり見られませんでした。それはなぜでしょうか？もちろん、皆さんの合格が嬉しくないわけではなく、実は、面接や小論文の指導中に、合格した生徒が高校生活を通じた志望校決定までのプロセスにおいて、誰もが納得し、かつ、具体性を持ったポートフォリオへの反映が十二分になされたものであったとの事でした。そうです、彼らの合格は「偶然的な合格」ではなく「必然的な合格」だったので、担任や教科担当者は、諸君の合格に納得でした。

付属高校生諸君…この合格体験記に記してくれた各先輩方の取り組みから、何かをつかめるのではないのでしょうか…次は…キミですよ。

